



ネクストライフ てるまむ通信

VOL. 18

HP へアクセス

第18号のてるまむ通信では、「オーナー百家争鳴」と題し、おもしろい記事がありましたのでご紹介します。

「全国賃貸住宅新聞・オーナー専科」に掲載されています。

「オーナー百家争鳴」このコーナーは、オーナーの皆さんにさまざまなテーマで話してもらおうコーナーです。今回は、最近のイベントごと。についての内容です。ちょっととした息抜き感覚で読むとなかなか楽しいものです。

「ネクストライフてるまむ」より

ゴールデンウィークも終わり、本格的な

夏の到来です。五月でもこんなに暑いのに・・・今年の夏はどうでしょう???

アパート管理をしていると、夏に怖いのは

《今月の気になる記事》

☆まさきに危機一髪ヒヤ汗のオーストラリア

肌寒い日本を離れ、今まさに夏真っ盛りのおーストラリアへサーフィン旅行に出かけましたが、私を待っていたのは「人食いザメ」の大量出現でした。インドネシア・バリ島で飲食店を経営する友人と訪ねた足を伸ばし、全部で、30日間の悠々自適の旅になるはずでしたが、とんだハブニングとなりました。オーストラリア入りしてから3日間はリゾート気分を満喫していました。朝10時から午後4時までサーフィン。宿に戻って1、2時間の昼寝の後、街に繰り出して夕食の後、バーでビールをひっかけ。気楽な一人旅でした。ところが、ある日、私がいた入り江でサメが人を襲った事故が起きました。その後数日間、立て続けに同じ事故が起こり、けが人は5人に。ある人は腕を失うほどの重傷だったそうです。事故当日こそ「けがした人は、運が悪かっただけだ」と強気にサーフィンを続けていました私ですが、ここまで連続すると強がってもいられません。サメに襲われて命を落とすケースもあるのです。早速サーフィンをあきらめ、安全な観光旅行に変更しました。

☆往年の名選手とメタバな現在

先日、大学ラグビー部の同窓会に出席しました。当時はレギュラー15人に対し、部員数は80人。激しい競争に勝てなかった私は、「第5の補欠」という目立たない選手でしたが、今回は5年ぶりの再会ということも手伝ってか、参加者が頻りに挨拶に来る人気がぶりでした。「みんな、本当に俺に会いたかったんだな」と涙腺が緩んだのもつかの間。質問が、私が昨年かかった糖尿病に集中するのです。なぜかと思えば周囲を見ると、ほとんどがメタバ予備軍、あるいは「現役戦士」さながらの堂々とした恰幅。痩せているにも関わらず、何の因果か一足早く闘病生活に入った私の経験が聞きたいようです。学生時代は誰も止められなかったチーム一の俊足の持ち主が、相撲取りと見間違えるほどの体形に変わっているのを見るのは、正直あまりいい気はしませんね。

☆チョココレートを入居者に年中プレゼント

バレンタインデーを、家主と入居者とを結びコミュニケーションツールとして利用しています。自社物件の入居者の1、2割の方は直接私に家賃を手渡ししてきます。その時に「どうもありがとうございます」と冷蔵庫の中からROSS E(ロイズ)のチョココレートを一箱あげています。5、6箱は冷蔵庫に常備しておきます。年間で30〜40個をプレゼントします。オーナーによる一方的な支払いかというとそうでもなく、帰省シーズンになれば、もどってくる入居者が次から次へとお土産を持ってきてくれるんです。毎年3、4月は我が家で、「全国美味しいもの祭り」が開催されているようなものです。

(全国賃貸住宅新聞より)

ためになる「日本人のしきたり」

端午の節句 — もとは女の子のお祭りだった

五月五日に行われる行事が「端午の節句」です。男の子のいる家では鯉のぼりをたて、五月人形を飾り、ショウブ湯に入ったりします。この行事は中国で始まったもので、かの地では、この日にショウブやヨモギを門につるしたり、ショウブ酒にして飲むなどして、邪気払いをしていました。これが日本に伝わって、「端午の節句」になります。端午の「端」は「初」を意味し、もともとは月初めの午の日を指しましたが、午が五に通じることや、五が重なることから、とくに五月五日を重五、重午などと呼んで、この日に祭りをするようになったといわれています。もともと日本は、端午の節句は女の子の祭りでした。田植えが始まる前に、早乙女と呼ばれる若い娘たちが、「五月忌み」といって、田の神のために仮小屋や神社などにこもってケガレを祓い清めていたのです。つまり、この日は、田の神に対する女性の厄払いの日だったのです。男の子の祭りに変わったのは平安時代からで、この時代、宮中では馬の上から矢を射たり、競馬などの勇壮な行事を行うようになっていました。そんななか、端午の節句で使われるショウブが、武事を尊ぶ「尚武」や「勝負」にも通じることから、男の子がショウブを頭や体につけたり、ショウブで作った兜で遊ぶようになり、女の子のお祭りであった五月忌みが、男の子を祝う行事に変わっていったのです。さらに、江戸時代に、五節供の一つである「端午の節供」に定められ、武者人形を家のなかで飾るようになり、また中国の「龍門を登って鯉が龍になった」という故事にあやかって、子供の出世を願うために鯉のぼりを立てるようになりました。五月五日は完全に男の子の節句になったのです。ところで、端午の節句にはチマキや柏餅を食べる習慣があります。この日にチマキを食べるのは、中国の伝説に由来しています。古代中国・楚の詩人であった屈原が、五月五日に川に身を投じて死んだことを人々が悲しみ、命日になると竹筒に米を入れて投げ入れていたところ、ある年、屈原の霊が現れて、「米を龍にとられるので、竹筒ではなくて、龍が嫌うチガヤの葉(チマキをくるんだ葉。いまは笹の葉で代用されていることが多い)で包み、糸で結んでほしい」といった話が伝わって、この日に、チマキが食べられるようになったとのことです。また、柏餅は、柏が新しい葉が生えないと古い葉が落ちないことから、後継ぎが絶えないとの願いが込められているともいわれます。